

野中  
編錄

修身寶訓

尋常科

卷一

217

266  
491

56

大日本教育會書館			
三冊	○號	五架	一八函
冊			

漢書門

K1101  
277  
1

B I

126



野中晦堂編錄

# 修身寶訓

東京 二書房藏梓



明治十九年五月三日內務省贈付

## 修身寶訓序

人生之始。略相等耳。及其既長。則正邪善惡之別。奚翅千萬。此乃自蒙稚時。知覺習染之所致也。故教育子弟。不可不夙開導。曉告之。務閑其邪。以養其正。禁其惡。以獎其善。驅而使人於循良之域矣。初余之未仕也。曾教授鄉黨子弟有年矣。忠誨之情。不能忘乎懷焉。頃適間暇。因博閱先哲

遺書。攬摭彞訓格言。有裨益于修身者。自其極簡約平易者。以至於稍詳密精微者。次第編錄。以便教誨。乃鈐之梓。以公于世。當今海內。文教大闡。蒙養之道。靡所不至。有志君子。幸有取焉。庶幾可以為上毗國家教化。下正鄉里風俗之小補耶。是余婆心之所以不能已焉也。

明治丙戌春日

晦堂居士



修身寶訓卷之一

野中晦堂編

第一章

○父母われをうみてくらう

す。  
詩經

○父母のめぐみハかぎりな

ト。大和  
俗訓

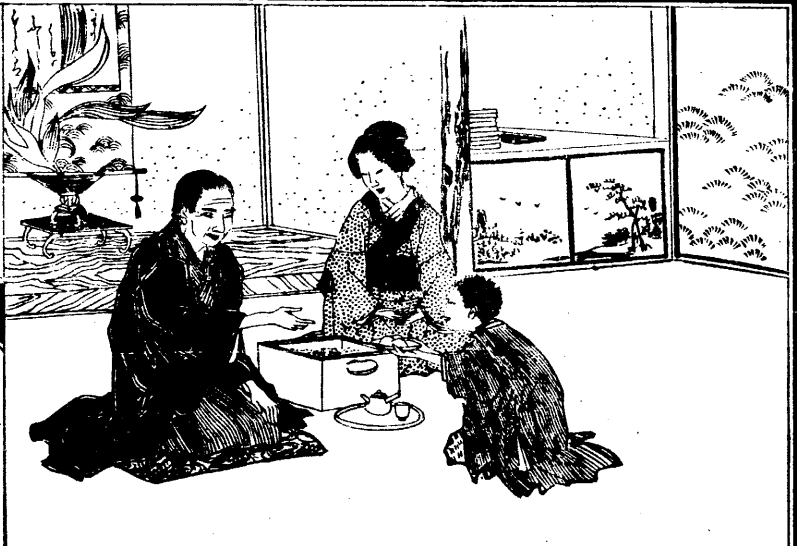
○父母なくんば。なんぞわれ

あらん。日新館  
童子訓

○ろの恩。うみよりふかく。や

まよりたか。大和  
俗訓

○人のみちハ親につかふる



を。は。ど。め。と。す。

惺窩  
文集

○人のたこな

ひ。孝より大な

るハな。孝  
經

○孝ハ徳のも

となり。孝經

○父母につかへてよくろの

力をつくす。論語

○父母これを愛せばよろし

んでわすれず。孟子

○父母これをにくまば勞し

てうらみず。全上

○不孝の子ハその身を天地

のうちにてたてがたし。大和俗訓

○兄ハ父につぎてたふとび

りやまふべし。日新館童子訓

○兄によろしく弟によろし

詩經

○ 杞よそいまの人。兄弟に  
くハなり。全上

○ 孝を以て。君につかふれば。  
すなハち忠なり。孝經

○ 忠臣ハ孝子の門にいづ。孝經傳

○ 君につかへて。よくろの身  
をいたす。論語

○ 師ハその恩ふかきおと。君  
父にひと。大和俗訓

○ 友ハその徳を。友とするな  
り。孟子子

○わかき人の善悪ハ。みなそ  
の友による。初學訓

○朱にまどハれば。あかし。墨

にちかづけバ。くるし。童子訓

○人をあハれむハ。仁なり。大和俗訓

○わが身をつめて。人のいた

さをしれ。古諺

### 第二章

○まなびて。時にあれをなら

ふ。論語

○學を志のむハ。智にちかし

中庸

○學問ハ善を杞おなふのみ

ちなり。初學訓

○知らざるを知らずとす。

れ知るなり。論語

○多きをもつて少きにとふ。

上全

○學問ハたゞ人たるの道を。

まなぶのみ。心學五倫書

○人と生れてまなばざれば。

生れざると杞なド。大和俗訓

○まなびても道をしらざれ

バ。まなばざると杞なド。上全



○道をしりても。杞ふなハざ

レバ。しらざるに。杞など。大和俗訓

○學問ハ。まづ。あゝろ。ぎりを。

たつるをもつて。本とす。全上

○あゝろ。ぎりあるものハ。事

つひになる。後漢書

○物をもて。あそべバ。あゝろ

ぎりを。うしなふ。經書

○心ハ。しづかなるべし。さハ

がしかるべからず。大和俗訓

○しづかならざレバ。心くら

くして。道理を。さとりがたし。

大和 俗訓

○ 木の木の心  
 をなほくし。木の  
 の木の行ひを。  
 たゞくす。闇の  
 ○ 木とハ。勉強



にあるのみ。前漢  
文

○ 業ハつとむるにくハく。  
 たのしむにすさむ。進學  
解

○ 今日まなばずして來日あ  
 りといふ木となかれ。勸學  
文

○ 人。一たび木れをよくすれ

バ。杞の礼。出。礼を。百たびす。庸中

第三章

○よこしまをふせぎまこと

を存す。周易

○中チにまふとあれば。ほかに

あらはる。大學

○平生のまゝろ。眞實にして。

いつはりなかるべし。大和俗訓

○誠ハつとめずしてあたり。

杞もハずして得。中庸

○温恭とハ。やハらかに。りや

まふなり。童子訓

○人をうやまふハ禮なり。大和俗訓

○愛敬ハ人のみちのもとな

り。翁問 荅

○愛とハ人をあハれむをい

ふにくまざるなり。大和俗訓

○敬とハ人をうやまふをい

ふあなたどらざるなり。全上

○礼よる事かろくゆるかせ

ふすべからず。從政名言

○つゝしめバ禍なり。五常訓

○つゝしむにあらざれば人

の道たゝず。大和俗訓

○人の謹しむべきものハな  
らハせにあり。嚶鳴館  
遺草

○心を正しくしてまがれる

にいたがはず。後白河天  
皇聖諭

○神ハ正直のかうべにやど

る。古  
諺

○正直をやしなふハ慾を制  
する小あり。嚶鳴館  
遺草

### 第四章

○人に交ハるみちハあつき

をむねとす。大和  
俗訓

○彼をさきにし己をのちに

す。小學

○人に交ハるにもつとも平

和なるべし。大和俗訓

○和らげば。あたなくし。のべ

バは。おなり。省心録

○われを是とし。人を非とす

べからず。初學訓

○人をそしれば。人もまたわ

れをそしる。全上

○人に交ハるにハ。言ばもか

た。ちも。禮をあつくすべし。大和俗訓

○言ばをつしめば。わがハ

ひな<sub>一</sub> 初學訓

○口ハ。わざハひの門。 家語

○事にとく<sub>一</sub>て。言ばにつ

くむ。 論語

○惡言くちよりいださず。 小學

○人の惡を稱するものをに

くむ。 論語

○下流にゐて。上をろ<sub>一</sub>るも

のをにくむ。 上全

○言ば。さかふて。出るものハ

またさかふて入る。 大學

○禮ハ。天地のつねに<sub>一</sub>て。人



の。此。り。な。り。  
童子訓

○年。た。い。た。る

人。に。あ。ふ。と。き

ハ。禮。を。つ。く。す

べ。い。  
願體俚  
諺鈔

○君。子。ハ。禮。儀

を。も。つ。は。ら。に。い。て。あ。ら。そ。ひ

な。い。  
大和  
俗訓

○自。ら。ひ。き。く。い。て。人。を。た。ふ

と。ぶ。  
小  
學

○能。あ。る。た。か。ハ。つ。め。を。か。く

す。  
古  
諺



○ろの能にほふればろの志をうしなふ。經書

第五章

○父母ハたゞその疾ひふれうれふ。論語  
○飲食をつゝしめバやまひ

なり。初學訓

○人生ハつとめにありつとむれば乏しからず。全上

○家をなすに道ありつゝまやかと曰ひつとむと曰ふ。省心雜言

○身をつゝしみ用を節して。

父母をよしなふ。孝經

○身を修むるハ道をおこな

ふもとなり。大和俗訓

○言ばをまことにし行ひを

厚くつゝしむべし。初學訓

○言ばと行ひと心と言ばと

にもてうらなかるべし。大和俗訓

○善をみてハおれふしだが

ひ義をまゝてハすなハち服

す。弟子職

○身に過ちあらばはやく改

むべし。大和俗訓

○過ちて改めざる。大れをあ

やまちといふ。論語

○過ちをはちて。偽りかざる

べからず。大和俗訓

○欲を忍ぶと。つとむべし。

忍ぶとハ。こらゆるなり。大和俗訓

○堪忍ハ。無事

長久のもどる

なり。東照公遺訓

○富貴ハ。天に

あり。論語

○下もをみれ



修身寶言 卷之二

バ。分にやすんどて。樂しみた

ほし。大和 俗訓

○世にハ。身の福祿。われほど

も。なき人たほし。全 上

### 第六章

○人として。道をしらざるべ

からず。杏翁 醉話

○人の道ハ。親に孝。兄に弟。一

日もなかるべからず。先哲 叢談

○勤むるに。あらざれば。人の

道。たふなハれず。大和 俗訓

○徳ハ。身をうるほす。大 學

備身寶訓 卷之十一

○ろの徳をつゝしまざれば。

悔ゆといつどもたふべけん

也。  
經書

○徳として。報いざる志とな

し。  
經詩

○遊びも度かさなれば。たの

しからず。  
楠公 格言

○奢りハ。長ずべからず。  
禮記

○慾ハ。ほしいまゝにすべか

らず。  
全上

○驕るもの。久しからず。  
平家物語

○いかりを志らし。慾をふさ

ぐ。周易

○枉れるに。一たがふことな

かれ。禮記

○あくど。千里をゆく。北窓瑣言

○隠れたるより。あらハれた

るハな。一。中庸

○前車のくつがへるハ。後車

のいましめなり。漢書

○己をせめて。人をせむるこ

となかれ。東照公壁書

○なんぢに。出でたるものハ。

なんぢに。反へるものなり。孟子

○無道をたこなふべからず。

非禮をなすべからず。聖徳太子遺訓

○天にいたがふものハ存し。

天にさかふものハ願體俚ハ諺鈔ハ存し。

○禍福門なし。たゞ人のまね

くところなり。左傳

○うれひハ忽せにするところ

ろに生し。わざハひハ細微よ

りたこる。後漢書

○人遠きたもんばかりなき

ときハ必ず近きうれひあり。

論語

○罪を天にうるときはたとひいのるともなんの益かあらん。願體俚 諺鈔

○上をろりり國のまつりごとをそりるハ大なる不忠不敬のいたりなり。家道 訓

○入りの國を愛敬するハその父母を愛敬するがまどくすべし。勸善 訓蒙



修身寶訓卷之一終

明治十九年四月十七日版權稟准  
同 年五月一日 出版頒行

編輯兼  
出版人

出版人

發賣人

大分縣士族

野中 準

長野縣平民

岡本 啓次郎

同 下谷區練辨町廿三番地

北 島茂兵衛

同 日本橋區通壹丁目

北 澤伊八

同 淺草區茅町貳丁目

坂上 半七

同 日本橋區十軒店

山中 孝之助

同 京橋區銀座貳丁目

價金八錢



野準編  
中錄

# 修身寶訓

尋常科

## 卷二

766  
491

館	大日本教育會書館			漢書門
	一	一	一	
三冊	○號	五架	八函	

K1201  
2